



新風会
永田 光臣
議員

▼ジオパーク国際会議の評価と今後の課題について

Q 産業振興にどのように結びつけるのか。

A 今後、半島一体となり島原半島を売りたい。また、他地域のジオパークと連携を深め、国際交流や地域間交流、観光振興、そして農水産品の特産品や土産品を創出することで産業振興につなげたい。

Q ジオサイトの課題と整備をどのように進めていくのか。

A 認定を受けた際、ジオパーク基本計画及び実施計画の確実な実施、展示・資料の見直し、施設間の連携、事務局スタッフの主体性の四つの課題を受けていた。今大会の開催に当たり、解決に向け取り組んできたが、案内標識の設置・表示など環境整備による利便性の向上、雲仙岳災害記念館の機能強化、国、県、学術機関で構築されている組織の断続的な運営体制の確立、特産物を活用した料理による地域独自の魅力の創造、例えば、ジオバーガーやジ・オムズびなどの知名度アップを図ることなどの課

題があり、今後も島原半島ジオパークの推進に向け、鋭意取り組む必要がある。

▼農業振興策について

Q 人・農地プランの概要と本市の取り組み状況はどうか。

A 人・農地プランは、今後の集落の中心となる担い手をだれにするのか、また、その担い手に農地をどのように集積していくのか、などの仕組みを集落ごとに作成するものである。このプランを市で決定すると、新たに就農する方や農地集積に協力する方に国の支援がある。本市では、二月と四月に農事実行組合長会を開催し、制度の周知を図った。また、五月には支援制度の利用を希望する方への説明会を行い、現在、プランの作成に向け作業を進めている。

▼物産流通対策本部の取り組みについて

Q 今後、どう取り組むのか。

A 民間から登用した本部長の経験を生かし、島原の魅力をPRしながら、首都圏や福岡等で販売できればと考えている。

【その他の質問項目】

◇学校教育について



チームI
中川 忠則
議員

▼ジオパークの活用と今後の課題について

Q 観光客誘致の取り組みは。(修学旅行)

A 空港、九州新幹線駅への電照広告看板の設置や航空会社、JRによる島原半島ジオツアーの販売。ジオパークを観光と教育に生かすことが理念だと考えている。

Q 関係市と連携し、文部科学省に教科書へのジオパークの掲載を要望できないか。

A 市長が副理事長を務める日本ジオパークネットワーク(百三十団体加入)と連携し文部科学省に働きかけていきたい。

Q 貴重な松平文庫をアニメ調を取り入れてもっとアピールしてはどうか。

A 国際ユネスコ会議期間中に、島原図書館において、噴火に関する絵図展を実施した。今後、より高いレベルの指定を受けるような作業中である。また、市民の皆様にどのような形で説明するか検討したい。

▼職務命令の方法と職員認識度について

Q 職務命令をどうとらえているのか。

A 上司の命令には忠実に従うべきであり、指揮命令系統を構築し、執務にあたっていくものと考えている。

▼防災無線や携帯電話が役立たなくなった場合の伝達方法について

Q アマチュア無線の活用は。

A 有事の際、通信網が途絶した場合の情報伝達、収集手段の一つと考えている。

Q アマチュア無線の資格を職員に取得させてはどうか。

A 有資格者の堀市民生活部長を中心に、諫早市の取り組みを参考に今後検討する。

▼学校要覧について

Q 要覧に学力テストや体力テストの結果を記載しない理由はなにか。

A 序列化や過度の競争につながらないように配慮するようにと国や県からの指導があつており記載していない。

Q 競争につながらない今の教育で、国際間の競争に勝つことができるのか。

A 確かに、今の教育理念では、社会に出てから通用するのかもしれないが、過度の競争原理を取り入れるのはどうかと考える。

▼高校早期卒業制度導入へ向けての取り組み

Q この制度が導入された場合、今の教育に欠けていると思われる競争原理を入れ込んだ中学校での教育が必要になると思いますが。

A 学力低下が懸念されている中、個人の能力に応じた教育をという事で検討されていると思う。今後の国の動向を注視したい。